

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418	
法人名	有限会社すずらん	
事業所名	グループホーム潮風	
所在地	三重県津市阿漕町津興214番地2	
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町提出日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム潮風の方針は、《命と健康の源》である食生活へのこだわりと、個々に応じたオンリーワン支援に思いを注いでいる。毎食ごとの炊き立てご飯・手作りおかず、お味噌も手作り(減塩手作り味噌)です。午前はコーヒータイム・3時のおやつ…職員も一緒に大家族のようにテーブルを囲み、会話しながらの楽しい貴重なひとときである。入居者9名の内訳は、97歳2名・96歳1名・94歳3名・90歳2名・88歳が1名…と、90歳以上が8名と、超元気な方ばかりでびっくりです。コロナ禍で希薄となった交流は電話、メール、文書というツールに代えて健在です。入居者様の近況報告には、スナップ写真を添えて、災害時の避難方法等についても、随時文書発送する中で危機感を共有し有事に備えている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosoCd=2470501418-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosoCd=2470501418-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会	
所在地	津市桜橋2丁目131	
訪問調査日	令和5年3月6日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者本人と家族も一体となって受け入れている事業所である。コロナ禍で交流が途絶えがちではあるが事業所が主体となり近隣・家族に呼びかけ出来ることを模索しながら関係継続を行っている。高齢の利用者が多く家族も高齢で悩みも多く家族支援にも力を注ぎ地域の高齢者施設・病院との良好な関係を活かし緊急時にも動じる事なく対応している。管理者の豊富な経験と地域に根付いた活動による人脈網の中での運営は、ますます信頼される事業所になっている。課題である津波対策にも力を入れている事業所である。

V. サービス成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No. 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36、37)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オンリーワン支援を工夫する中で、笑顔溢れる暮らし方を大切にしている。入居者を中心にご家族、職員が思いをひとつにした日常的な関わりの中で、我が家に居るように過ごして頂いている。	利用者一人ひとりを大切に笑顔あふれる暮らしができるよう理念にそって支援を行っており毎朝の朝礼で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域を交えた交流は潮風の基本方針としている。コロナに翻弄される状況禍ではありますが、社会情勢等鑑みの中で、恒例となっている手作り減塩味噌作り、干支の置物作りは開催しました。	コロナ禍でのイベント縮小で地域との交流は減っているものの散歩時や外気浴時のあいさつ等日常的な交流は続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり以前のような情報発信は出来ていないが、地域の中では認知症専門事業所としての役割が担えるようになってきている。地域の中の施設として分かり易く情報発信出来るように努めていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、今年度もほとんど開催見合わせとして潮風の近況等を含む活動報告を文書により発信しました。毎年恒例となっている、干支の置物作りについては、感染防止対策の徹底を図る中開催致しました。	運営推進会議は思うように開催はできていないが近況報告の発信を行っている。コロナ禍での試みで干支の置物作りを開催し現状を把握してもらえる機会となった。状況を鑑み開催を考えているところである。	会議開催に向けて工夫を行うことで意見交換の場を設定しサービス向上への新たな視点を見いだせる機会になることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で、市役所等に直接出向く機会も減少していますが、介護保険の更新等の機会を利用して施設の近況を伝えたり、一方でその都度の疑問等に応えて頂いたりしている。	介護保険更新時等相談事があれば窓口に出向き協力を仰いでいる。コロナ禍では出かける機会は減少しているが問題等には電話で対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	潮風の指針及びその具体例を示し、すべての職員の共通認識としている。個々の危険の回避、安全対策を講じる方法等についても、ご家族様の要望を踏まえた上で随時検討している。	事業所独自のマニュアルをもとに会議を開催し職員の意識向上を図っている。利用者の状態に合わせ安全対策を検討するとともにヒヤリハット報告で事例検討を行い身体拘束を行わない支援を職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の人権の擁護、虐待防止等の観点から、指針の整備、研修の実施が義務付けられている。潮風虐待マニュアルにより個々の認識を深め、申し送り時に必要に応じた話し合いの機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度についてのパンフレットを活用、マニュアルを常備して制度の理解、認識に努め、申し送り時に必要に応じた話し合いの機会を作っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至るまでのプロセスを伺う中で、ご本人やご家族の思いを十分に傾聴し、話し合いを深めるように努めています。潮風とご家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約としている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で思いが言い出しやすい雰囲気作りを心掛けている。一方で面会時や文書発送時等を利用して、ご本人の状態や近況を示す中で、ご家族の思いや希望を聴かせて頂き、希望の実現に向けた支援を工夫するように努めている。	最小限の面会の機会や電話連絡、文書発信による近況報告の中で意見を聞く機会を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中での情報の共有、情報交換を密にしている。情報共有ノートを日常的に活用し、その都度の意見や提案、困りごと等をリアルタイムで自由に記入し、その都度の問題解決へと繋げている。	管理者は職員からの意見を聞く機会を常に意識している。日々の業務の中で情報交換ノートの活用により良好な関係を築いており問題解決にむけて素早い対応を行うようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員のライフスタイルを優先した勤務体制を可能な限り優先している。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心掛ける中で、頑張った職員が報われるような賃金体系へと繋げている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手分野ある職員には、力量のある職員や管理者が克服に向けたサポートを心掛けている。その内容については全体の問題として捉え、職員間で話し合う機会としたり、内部学習として取り上げる等、資質の向上に繋げるように努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、潮風としては入居者ご家族、職員の命を守る行動を最優先している。日々変動見られる社会情勢に応じたコロナウイルス感染防止対策の徹底を優先している為、外部との接触、交流の機会も少なくなっている。			

## Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントした情報等を含めた中で、本人の願いやご家族の思いを、ゆったりと傾聴するように心掛けている。寄り添う中で信頼関係を築き、安心感を持って頂けるような関係作りへと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの苦悩や葛藤を、ゆったりと傾聴する中で、不安に思っている事を把握、本音を吐き出して頂けるような対話を心掛ける中で、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけ捉われることなく、対話している中から、真に必要な支援を見極めています。相談内容を傾聴する一方で、専門職としての見解を示し、必要な支援へと繋げていくように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事など、個々に出来る事は職員と協働で行って頂き、共に仕事をする中で得意を發揮して頂いています。そのような機会が本人の意欲を引き出し、自信の回復に繋がり、生活力の喚起へと繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者・ご家族・職員がひとつの家族であり、日常的に気軽な交流となっている。潮風とご家族様が思いをひとつにした支援に心掛けている。本人にとっては潮風が我が家であり、ご家族にとっては潮風が実家でもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族からの情報を聴かせて頂く中で、今迄の本人を取り巻く環境等を勘案、可能な限り、入居までの関係が途切れないように、大切にしながらの支援に努めている。	以前からの関係を聞き取りできることを検討して関係継続のための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の身体状況及び性格、趣味や職業など今迄の生活環境を勘案する中で、相性の良い方を見極め、良好な関係作りへと繋げるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居になった方、看取りをさせて頂いた方等、そのご家族が立ち寄って下さる事もある。一方で、入居者を紹介して下さる方、行事や運営推進会議に参加して下さる方もおみえになる。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の思い、希望をしっかりと傾聴する中から、本人にとっての最適な方法を引き出していけるよう努めている。	オンリーワンの支援を目指し利用者の日々の様子や言葉から思いを把握するように努め、笑顔で生活できるように検討して支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族からの情報を基に、生活歴や病歴、過ごし方等を把握、サービス利用等の状況については、担当ケアマネよりの情報を基に把握、慣れ親しんだ暮らし方が日々の生活に反映できるように支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるような側面的な支援を心掛けている。その時々、思いや希望を取り入れた過ごし方が可能となるように支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族がどのように過ごしたいと思っていられるか、その都度の要望、又、状態の変化に応じた検討をリアルタイムに重ね、本人らしい過ごし方の実現に向けた介護計画を立案している。	本人、家族の思いを聞き取りより良い環境で暮らすことができるよう職員で話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える一方で、情報共有ノートを日常的に活用している。リスク管理に必要な情報の共有、特記、個々の状態に応じたリアルタイムでの支援方法等、個別な支援及検討に活用する中で、支援の充実へと繋げている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。ご家族との交流も大切にし、その都度の状況に応じた最善な方法を話し合う機会としている、リアルタイムでの柔軟な対応が可能な環境となっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、自治会、医療・福祉関係者、入居者ご家族様との協力、交流等、社会性の充実を図る生活作りを工夫しているものの、コロナウイルス感染防止対策の徹底を図っている現状の中では、外部との交流に制限もあり、限界も感じている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者、ご家族の意向を反映した上で、協力医療機関による24時間の在宅医療サポート体制がある。定期往診、定期受診に加え、随時の相談、診療体制も可能となっており、安心出来る医療体制を構築している。	入居時に本人・家族の意向を確認し主治医を決めている。24時間在宅医療サポート体制がある中、定期的な往診のほか随時に相談、受診できる。緊急時の対応に慌てることがないよう情報共有を行い適切な医療体制を構築している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の特に看護師とは、日常的に情報を共有している。リアルタイムでの情報交換を密にする中では、その都度適切な指導、アドバイスが頂け、安心出来る体制が構築されている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師、ソーシャルワーカー、地域連携室等との交流を日常的に行う中で、最善な対応が可能となるような関係作りの構築に努めている。人となりを含めた介護サマリを作成し、情報提供、療養生活を側面的に支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、必要に応じたその時期に主治医、ご家族との話し合いを重ね、万が一に備えている。一方で個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、その方とご家族にとっての最善な終末期ケアに向けての意思統一を図っている。	終末期のあり方をその時期に家族、関係方面と話し合い方針を確認している。情報共有を常に心がけ利用者や家族に寄り添い希望に沿ったできる限りの支援を行っている。一人ひとりの状態、状況を考え安心できる方法をチームで検討し支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず的確な行動が可能となるように、緊急時に必要なその方法を全職員に「具体的に示し、情報共有する中で認識を深めている。一方でその方法を事務所、施設内に具体的に掲示して、とっさの場合に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的なその方法をリアルタイムで情報発信し、職員、ご家族、地域の中で情報共有している。ご家族には随時文書にて情報を発信し有事に備えている。協力医療機関でもある津生協病院附属診療所を津波避難場所としており認知症の施設としてはとても心強い。	ローリングストックを以前から行い災害への危機意識は高く様々な対策を行っている。玄関先には家族が持ち出せるよう利用者の持ち物も準備している。		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重については、職員間で十分に意思統一を図り対応している。個々に応じた、その人にふさわしい対応をその都度工夫する中で、オンリーワン支援に努めている。	プライバシーの配慮、一人ひとりの人格を大切にし笑顔があふれる支援を心掛けて理念に沿ったオンリーワン支援を目指している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症ある中では、自身の思いを表出できる方も少ない。個々のの気持ちに寄り添う中で、その都度の思いを共有、共感し、真の思いが意思表示して頂けるように、側面的な働き掛けをその都度工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく生活して頂けるように、職員はさり気なく側面的な支援を心掛けている。その日の身体状態や精神面に配慮しつつ、本人の希望を取り入れた過ごし方が可能となるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地、安楽な着脱を優先しつつも、好みも優先している。ヘアスタイルも身だしなみとして、こまめに「潮風カット」を楽しんで頂いている、又、ご家族と行きつけの美容院へ行かれる方もあり、個々の希望に合わせた柔軟な対応をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、炊き立ての温かいご飯と温かい手作りの料理が自慢です。旬の食材を献立に加えたり、行事に合わせた料理やおやつ、季節を感じて頂く機会でもある、又職員も同じテーブルを囲み、会話しながらの食事は大家族のように親しみ、楽しい貴重な時間である。	家庭の延長のようにメニューは決めずにその日の食べたいものを相談して手作りで提供している。近隣から提供される旬の食材を活用し季節を感じながら職員と一緒に食事を行い、話が弾む楽しいひと時である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、栄養配分、水分量、好み、主治医の意見等を勘案する中で、個々の摂取量の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理形態と、好み等を配慮しつつ、食事を楽しみとして頂けるよう工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の残差物の除去、朝夕の歯磨き、うがい等、個々に応じた適切な方法で口腔内洗浄を実施している。、夜間は歯ブラシ、コップ等は洗浄後ミルトン消毒、義歯は洗浄後ポリドントにて消毒、個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意ある方、曖昧な方を問わず特別な事情がない限り全員トイレの利用を基本としている。気配や訴え時には、自然な排泄が可能となるように随時に自立支援を実施。その都度清潔保持に努める中で、皮膚状態の観察、確認も実施している。	声掛けをしてのトイレへの誘導はあえて行っていないが、トイレでの排泄が基本であり自然に排泄が出来るよう日々支援を行っている。清潔保持には気を配り皮膚状態を確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用する中で、個々の排便リズムを確認、必要に応じた対応を実施している。食生活を工夫したり、他の入居者と楽しみながら行える体操や散歩等、運動の機会を工夫しての整腸にも努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康維持、爽快感、気分転換の機会として、入浴を楽しんで頂いている。すぐに忘れて何度も身体を洗ったり、何度も何度も浴槽に浸かったりされる為、見守り、声掛けしながら安全確認を行う中で、思い思いに入浴を楽しんで頂いている。	安全管理の声掛けや見守りの中、思い思いの入浴を楽しんでいる。入浴拒否気味でも声かけを工夫して促し入浴後の爽快感を味わってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	楽しみな時間を共に過ごすように心掛けている心地よい疲労への促しとして、午前中には火災時の避難場所でもある潮風前アパート駐車場への全員散歩を日課とし、季節を感じて頂く機会、体内時計の調整へと働き掛け、夜間の安眠へと繋げている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋により薬効、薬害、リスク等の認識を深めている。服用方法については、誤配、誤飲を防ぐ為、3段階チェックを徹底している。実際の介助の際には、個別の服用方法、必要な介助方法を共有する中で、安全対策の徹底を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員も含めた大家族の中で、出来る家事を分担し協働する事で自身の役割意識、家族的な連帯感を育てている。毎朝のコーヒータイムや食事は職員も同じテーブルを囲み楽しんでいる。笑い声が絶えない空間であり、安心出来る居場所となっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止対策の徹底を図っている中ではご家族との交流にも制限がある。日課についても午前中の散歩以外ほぼ外出の機会もなく、施設内でのレクリエーションが基本となっている。社会情勢を鑑みの中で、毎年恒例になっている干支の置物作りと手作り減塩味噌作りは実施するようにしている。	火災時の避難場所となっている場所を認識していただく意味もあり、日常的な散歩コースとしている。コロナ禍では他の場所へ出かけることが不可能なため、玄関先のベンチに座り外気浴を行って行き交う近隣の住民と交流している。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望される物、食べたい物はおやつに取り入れたり、献立に加えたりの対応を実施している。又必要な物あればご家族に伝えて、購入して頂く体制となっている。認知症状によるトラブルも懸念される為、お金のお預りは一切対応していない。			
51		○電話や手紙の支援家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ感染防止対策の中では、知人様との交流についても控えて頂き、不要不急の面会自粛をお願いしている。ご家族様には電話で話して頂いたり、近況報告を手紙にしたためてスナップ写真を添えて送らせて頂く中での交流とさせて頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下、各居室には季節を感じて頂けるような掲示物を工夫している。入居者の得意を發揮して頂く機会ともなっている。行事のスナップ写真や個々の思い出の写真なども多く掲示しており、満足気に眺めては会話の糸口にもなっている。	柔らかな光が差し込むリビングダイニングには利用者が集い、掲示物や季節を感じることができるように工夫している。訪問時にはお雛様が飾られコロナ禍ではあるが閉そく感も無く華やかであった。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは日常的に集う場所となっており、余暇の交流を楽しむ空間となっている。ソファでは気の合う人のおしゃべりや、職員とのふれあいの場ともなっており、我が家のように思い思いに過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、慣れ親しんだこだわりの物を配置したり、楽しく過ごした思い出の写真等を掲示、落ち着ける場所となるように工夫している。コロナ以前はご家族、知人の面会時にはお茶を囲んでゆったりと過ごして頂ける空間ともなっている。	居室には備え付けの家具があるが、自宅で使い慣れたものを持ち込み居心地よく過ごせるように支援を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を含めた身体及び精神機能を勘案する中で、個々の動きに合わせた、自立に向けた動線の確保を基本とし、安全に安心して過ごして頂けるような環境作りを工夫している。			